

【活用にあたって】

漢字は成り立ちから、主に次の4種類に分類されます。象形・指事・会意・形声とよばれるものです。

象形：物の形をかたどって、作られた漢字。

例：川、馬、山、雨、魚、日、耳など

指事：形のない抽象的な事柄を点や線で表された漢字。

例：上、下、本、末、未など

会意：二つ以上の字を組み合わせて、それぞれの意味を生かして作られた漢字。

例：林（木＋木）、鳴（口＋鳥）、信（人＋言）など

形声：意味を表す部分と音を表す部分を組み合わせて作られた漢字。

例：銅（金—金属の**意味**＋同—ド**ウ音**）

河（氵—水の**意味**＋可—カ**音**）など

このように中国から受け入れた漢字のほかに、日本独自に作られた漢字を「国字」と言います。畑や峠などですが、さらに、地域ごとに漢字が作られたのが「方言漢字」と記事に書いてあります。このような漢字から、どんな意味の漢字が組み合わされたものかを考えてみるとおもしろいですね。

解答例

問1：祭礼の時、種々の飾り物などをして引き出す車。屋台。（広辞苑第五版）

問2：杵（いり）

問3：働・働（く） / 杵 / 込（む） / 匂（う） / 凧 / 雫 / 躰 など